

平成 23 年度第 1 回ルール委員会議事録

開催日時 : 2011 年 6 月 19 日 10:00~16:00

場所 : 岸記念体育館

<出席者>

委員: 増田開、大村雅一、前園 昇、松原次夫、青山 篤、柴沼克己、川北達也、日下部大蔵、秋元和子、榛葉克也、村松哲太郎、田中正昭、桜井常雄、岡部幸司、高野由美子、小玉淳一、佐藤百一、斎藤和久、渡辺 勝、岡嶋佳治、富松 潔、石川雅之、高谷 智、坂元善行、加藤圭二 (計 25 名)

支援委員: 高田俊男、 顧問委員: 前田彰一、 事務局: 寫村有希子

<欠席者>

委員: 山口泰正、川寫秀則、中野佐多子、富田博司、西田昭二、朝田耕平、木内 誠、川田貴章、黒川重男 (計 9 名)

顧問委員: 周東英卿、米澤一、大谷たかを、石井正行、 事務局: 内田みち子

1. <報告>平成 23 年度事業計画 . . . 増田委員長

1.1 平成 23・24 年度のルール委員会の活動について、次の課題が挙げられた。

- 1.1.1 指導者・選手向けルール講習会を通してジャッジのレベルアップと特にエントリーレベルの選手のルール理解促進の必要性が明確になったこと。
- 1.1.2 規則 42 の理解・浸透はある程度進んだ一方、規則 42.3 (例外) で許されている行動の積極的利用や、艇種別特性等、より精度の高い理解の普及の必要性が高まっていること。
- 1.1.3 指導者へのルール理解・認識の普及や啓発は期待通りには進んでいないこと。
- 1.1.4 ルール・ブックの普及がまだ不十分なこと。

1.2 上記課題克服のための重点強化ポイントとして、以下が挙げられた

1.2.1 各層への働きかけの継続と強化

- ・ ジャッジ: ジャッジ・セミナーの全国展開の継続と充実。ML の整備と活用による情報提供の強化。
- ・ アンパイア: クリニック等の充実、IU 候補の発掘と育成。
- ・ 指導者・選手: ルール講習会の全国展開の継続と充実、ウィンドサーフィンへの対応。

1.2.2 その他

- ・ RRS 改定に向け、ルール・ブック発行形態と、現行訳語の最適化協議
- ・ ジャッジ、アンパイア認定料の適正化

1.3 委員会の構成と運営

- ・ 従来の小委員会制を継続する。来年度には RRS2013-16 日本語訳発行と資格更新に対応するための小委員会を追加する。
- ・ 全委員がいずれかの小委員会に所属し、分業と責任分担により事業を推進する。
- ・ 必要に応じて小委員会をまたぐ WG を設け特定課題に対応する。
- ・ 事務局の分業と責任分担により、業務分散とノウハウ委譲を図る。特に、地方事務局員による分業が可能な仕組みを構築し、世代交代し易い事務局体制を築く。
- ・ 確実なノウハウ委譲と専門業務のタイムリーな遂行のため、顧問委員・支援委員制を継続する。
- ・ 加盟団体、JSAF メンバー、NJ、NU との交流や情報提供を更に強化する。
- ・ 年 3 回 (東京 2 回、地方 1 回) の委員会開催を継続する。
- ・ ネットワーク会議システム (スカイプ) を活用しての 3 役ミーティングを継続する。

1.4 H23 年度事業計画

- ・ H23 年度事業計画について、当初計画に対し ISAF IJ セミナーの今年度開催を H24 年度に延期した。(JSAF 東北支援の財源捻出のため)

2.<協議>今年度小委員会活動計画

2.1 ジャッジ小委員会 前園小委員長

2.1.1 次世代ジャッジの発掘と育成

【方針】各地域の自主的な活動を活性化させるための「しくみ」を作る。
具体的な取り組み内容として以下の項目が挙げられた。

- ・A級ジャッジ認定講習会の開催
- ・NJBに求めることの明確化とNJAまでの道筋づくり
- ・NJA/NJB試験問題作成
- ・NI認定講習会の骨子標準化

2.1.2 ジャッジ資格保有者のレベル向上

【方針】セミナーと実践経験の両面が積み重なる「しくみ」を作る。
具体的な取り組み内容として以下の項目が挙げられた。

- ・ジャッジ・セミナー開催
- ・大会参加公募のしくみ構築
- ・地域大会への参画

2.1.3 情報公開・管理

具体的な取り組み内容として以下の項目が挙げられた。

- ・Q&A日本語訳作成、公開・・・H23
- ・ケースブック日本語訳作成、公開・・・H23（更新ある場合）
- ・ジャッジマニュアル日本語訳作成、公開・・・H23（更新ある場合）
- ・艇種別規則42違反の日本語訳、公開・・・H23（更新ある場合）
- ・プロテスト標準フォーム更新・・・H23
- ・ジャッジ名簿管理（NJA/NJB）・・・H23
- ・レガッタレポート/国体ケース/上告裁決の有用化・・・H23：検討/H24実施
- ・B級ジャッジ仮認定証発行・・・H23

2.2 IJ/IU 育成委員会 増田委員長

今年度の活動目的が、世界に通用するジャッジ・アンパイアを発掘養成することでナショナルオーソリティーとしての世界での地位向上と国内レースの質の向上を図ることであるとの説明がなされ、具体的な活動内容として次の事項が挙げられた。

- ・IJ/IU候補者の国際大会等への参加機会獲得支援と渡航費補助
- ・国内開催国際大会へのIJ/IU、IJ/IU候補者の招聘
→Sail Wakayama、江ノ島オリンピックウィークに海外IJを招聘し、江ノ島オリンピックウィークにはIJクリニックを併設することを検討中。
- ・ISAF年次総会、国際大会の情報収集と展開
- ・IJセミナーの招致：来年度開催に延期するが、準備は今年度。

2.3 アンパイア小委員会 田中小委員長

2.3.1 アンパイア認定・更新・管理

- ・認定講習会の開催（今年度7/22～7/24 葉山）
- ・更新講習会は2013年実施予定
- ・海上でのアンパイアリング、講習会等への参加実績の管理を行う。ライセンス証発行が遅れていたが発行方法が確立できたので今後は速やかに発行する。

2.3.2 アンパイア育成・スキルアップ

最新情報の共有、勉強会を行うと共に、日本選手権等への海外からのIU招聘等を通じてNUのスキルアップを図りたい。

2.3.3 関連文書翻訳

コールブック、マニュアル、ラピッド・レスポンスの翻訳・展開を行う。

2.3.4 マッチ・レース、チーム・レース大会へのアンパイア派遣

大会主催者からの依頼に基づき、アンパイアを派遣し、マッチ・レース、チーム・レースの普及を推進する。

2.4 規定小委員会 岡部小委員長

- ・ ISAF セーラー分類規定の日本語訳
→ 高田顧問委員による日本語訳を元に作成する。分量が多いので規定管理小委員会だけでなくルール委員会全体で分担して邦訳を完成させる。
- ・ 付属文書 Q-2011 改訂版の邦訳
→ 小規模な改定なので早急に邦訳を完成し展開する。
- ・ NJ/NU 規定細則の追加改訂・NJ/NU 規定事務取扱要項の追加改訂
→ 昨年度からの継続検討項目であるが、更新料について、レース委員会や計測委員会と足並みを揃える必要があるため、まずはルール委員会内の意見を煮詰めて、12月に予定されているレース委員会の合同会議に臨む。
- ・ 付則 LE、BB、EXPERIMENTAL APPENDIX Q-2009 の日本語訳を実施する。

2.5 外洋小委員会 大村小委員長

外洋レース規則 2009 および例外的にエンジンの使用を規定した RRS42.3(h)の普及を促進し、検証を進める。JSAF の HP (WebJ-Sailing 内) に「緊急時などでレース中のエンジン使用が認められますー安全な外洋レースのためにー」という記事を掲載した。
(H23.6.12 付)

2.6 普及小委員会 石川小委員長

指導者・選手へのルールの浸透を目的とし、以下の事業内容を行う。

- ・ 指導者・選手向け講習会
→ ウインド、ジュニア向け講習会のメニュー、ツールを作成したい。各講習会の講師は各地域メンバーでの実施とし、費用圧縮を図る。
- ・ 加盟団体他からの要請のルール講習会
- ・ 上記実現のための諸団体への働きかけ
- ・ 簡易ルール翻訳・発行
- ・ ルールジャッジ関係代表者管理 (名簿のメンテナンスを実施)

3.<協議>各小委員会内の分担、推進協議

※ 各小委員会に分かれて分担推進協議が行われた。

4.<審議>IJ/IU 推薦委員会メンバー 増田委員長

H23 年度 IJ/IU 候補推薦委員会メンバーに対する審議が行われ、承認された。

5.<報告>上告裁決 増田委員長

「上告 2010-02 (案)」の内容及び最高審判委員会での審議の経緯について報告された。

6.その他 前園副委員長

- ・ レース委員会からの質問について
→ レース委員会からの質問「タイムリミットの起点となる先頭艇」に対する回答について、質疑が行われた。
- ・ 今年度の第2回、第3回ルール委員会開催日について
→ 第2回ルール委員会は12月3日～12月4日、開催場所は広島の予定。
第3回ルール委員会は3月3日または3月4日、開催場所は東京の予定。